

**おおあめ かみなり どうしよう 絵本**  
**保護者の方々、先生等読み聞かせのための解説資料**

エディ君(犬)、あっちゃん(虎)、みっちゃん(熊)、あきちゃん(猫)、まあちゃん(兎)

	イラスト	解説
表紙		<p>この絵本について</p> <p>この絵本は、幼児や障がいのある子どもたちに、大雨や台風に向けて知っておいてほしいことを、絵で伝えるために作成しました。</p> <p>絵本に登場するのは、幼稚園児と小学生の5人のお友達です。</p> <p>あっちゃん(小学2年生の虎) エディ君(幼稚園年長組の犬)          まあちゃん(幼稚園年中組の兎) あきちゃん(幼稚園年中組の猫)          みっちゃん(幼稚園年長組の熊)</p>
1		<p>1枚目</p> <p>大雨が降ると、家の前の溝に詰まっている葉っぱやゴミで、水が流れなくなり、道路や家の中にも水が入ってくるため、ときどき溝のお掃除をしておくことが大切です。子どもたちにも手伝ってほしいことを知ってもらいます。大雨になる前に、掃除を済ませておくことが大切です。</p>
2		<p>2枚目</p> <p>台風が近付いてきたら、マンションのバルコニーや庭にあるものが、風で飛んでしまいます。人に当たってケガをさせてしまう危険があるので、事前に片づけることの大切さを覚えてもらいたいです。植木鉢などを部屋の中にしまうことと、物干し竿などは下に降ろしておくことを知ってもらいたいです。</p>
3		<p>3枚目</p> <p>大雨が降った後にできる水溜りに、子どもたちが入って遊ぶ姿がよく見られます。しかし、溜まっている水は汚いことと、幼稚園児のように小さな長靴を履いている場合は、長靴に水が入ると歩けなくなってしまうため、水溜りには入らないことを知ってもらいます。もし、水溜りができている時は、ひもをしっかり結べる運動靴の方が安全なことも知ってもらいます。</p>
4		<p>4枚目</p> <p>大雨が降ったときは、道路に水がいっぱい溜まり、建物の前にある溝が見えないことがあります。やむを得ず浸水している道路を歩くときは、キョロキョロせず、しっかり前を見て、水溜りや溝にはまらないように注意し、溜まっている水は汚れていて下が見えないので、傘や棒などで道をつつきながら歩くと安全なことを知ってもらいます。</p>

	イラスト	解説
5		<p>5 枚目</p> <p>雷の鳴る音が聞こえた時や、遠くてもピカッと雷の光が見えたら、早い目にお家の中に入るようにしてほしいことと、雨宿りなどで大きな木の下に入ると、雷が落ちてきて危ないことを説明しています。木の下での雨宿りは絶対にいけません。雷は高いところに落ちることを知ってもらいます。</p>
6		<p>6 枚目</p> <p>大雨が降ったら、浸水するだけでなく、山の道や道路の横にある崖などが崩れることがあります。雨が降っていて、崖や山肌から、小石がコロコロ落ちてきたり、水が湧きだしてきたり、変な臭いがしてきたら、土砂崩れの前兆かもしれません。そこから離れて、早く逃げることを覚えてもらいます。</p>
7		<p>7 枚目</p> <p>雨がたくさん降ったら、近くの川の水が増えてきて、洪水になる危険があります。また、雨が止んでもの川の水が増え続けることもあります。雨が降っているときは、川を見に行かないことが一番大切なことです。間違っって川に落ちたら、助からないことを知ってもらいます。</p>
8		<p>8 枚目</p> <p>台風が近付くと、風が強くなって、色々な物が飛んでくることがあります。カーテンを閉めておくと、もし、窓ガラスが割れても、カーテンでガラスが飛び散るのを防いでくれます。子どもたちにも、窓を閉めて、カーテンも閉じておかないと、危ないことを知ってもらいます。台風の時は、窓に近づかないことも大切です。</p>
9		<p>9 枚目</p> <p>台風や大雨で、電気がつかなくなって、停電になることがあります。真っ暗になるため、むやみに動き回ると転んでケガするので、じっとしていることと、懐中電灯をすぐに使える場所に置いておくことを覚えてもらいます。</p>
10		<p>10 枚目</p> <p>みんなが住んでいる町ごとに、ハザードマップという、災害が起こると危険になる場所を教えてくれる地図があります。</p> <p>この地図は、地震でどれくらい揺れるのかや、大雨で浸水する場所や、川が溢れて洪水になる場所、土砂災害で土地が崩れそうな場所を、色を変えて教えてくれます。色が濃いほど危ないということを知ってもらい、</p>

	イラスト	解説
		お家が危ない時はどこに逃げるかを知ってもらいます。あらかじめ自分の町のハザードマップを調べておきましょう。
11		<p>11枚目</p> <p>大雨が降って危なくなる前に、気象庁や市役所などから、警報や避難を知らせる情報が発表され、テレビで伝えてくれます。。子どもたちには難しい言葉もありますが、テレビの画面に出て来る5段階の色で危ないことや、逃げるタイミングを知ることができます。赤色(レベル3)は、大雨警報や高齢者等避難などが出されている状況なので、避難に時間がかかる人は危険な場所から離れるタイミングです。紫色(レベル4)は、土砂災害警戒情報や避難指示が出されている状況で、危険な場所から全員が避難するタイミングになります。黒色(レベル5)は、災害がすでに起こっていてもおかしくない状況を示し、黒色を待ってはいけません。赤色または紫色の時点で、危険な場所から離れることを覚えてもらいます。</p>
裏表紙		<p>裏表紙</p> <p>保護者のみなさんや先生方は、この絵本を読んだ子どもたちが、雨が降った時や、台風が来るときに、どうしたら良いかなどについて、話し合えるようにしてあげてください。</p>